

ワークショップ2 「レーザー内視鏡を用いた消化管診断」

Endoscopic diagnosis of gastrointestinal tract using laser

司会 中村哲也（獨協医科大学医療情報センター）

下田 良（佐賀大学光学医療診療部）

消化器内視鏡検査にはこれまで永らくキセノン光源が用いられていたが、最近ではレーザー光が用いられるようになってきた。また、これまで広く普及してきた面順次方式では不可能であったレーザー診断（PDD：photodynamic diagnosis）が、面同時方式の内視鏡で可能になることが判明し、消化管診断の在り方が大きく変貌をとげつつある。消化管腫瘍の早期診断、質的／量的診断から炎症性腸疾患における病勢診断や colitic cancer の拾い上げまで、その用途は多岐にわたる。本ワークショップではレーザー内視鏡による新しい診断だけでなく、レーザー光を用いた画像診断の可能性と有用性について幅広く演題を募集する。